

学校教育目標	心をつなぎ、ともに「生きる力」を発揮できる子どもの育成
育成を目指す資質・能力	確かな学力の定着・向上 ・豊かな心の育成 ・健康な心と体の保持増進

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・学力調査では、目標値を上回っているものの、本校の目標に掲げた80%の正答率には至っていない。 ・達成指標80%以上に対し下回る教科及び内容について、成績下位層の児童への支援を工夫することが必要。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・成績下位層の児童の多くは、生活習慣・家庭学習習慣が定着していない傾向にある。個別指導と合わせて、保護者への啓発も行う。 ・計算処理能力のスキルアップ、漢字の読み書き習得にも力を入れ、基盤となる学習知識・基礎基本事項の定着を図ることが必要。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・家庭学習・チャレンジ(国語)タイムによる基礎基本事項の定着及び個別指導により、50%以下の児童の割合8%以内を目指しているが、まだ達成できていない。「自分の見方・考え方を持っている」と回答した児童は85%だが、残りの15%に働きかけるような支援が必要。 ・学習のきまりアンケートにおいて「背筋を伸ばす」「鉛筆を正しく持つ」の項目に対してできていないと思っている児童の割合が他の項目に比べて多かった。生活習慣や学習用具の使い方の基本として、日頃からの注意喚起が必要。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・授業における課題の質の向上、効果的なペア・グループ学習等により、児童の「思考力・判断力・表現力」の向上が見られる。 ・成績下位層への指導も含めたきめ細かな指導により、単元末テスト結果の数値が上昇している。 ・互見授業により、個々の授業改善への意識が高まり、授業内容(課題設定、教具、板書など)が充実してきている。 ・児童が話し合いによって思考の広がりや深まりを実感できるように、発達段階に応じた系統的な指導を検討することが必要。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・成績下位層の学力向上のために、個に応じた指導をさらに進めていくことが必要。 ・家庭や地域と協働できる取り組みについて具体的な方法や取り組みを検討していくことが必要。	

学力に関する達成指標

本年度達成指標:学力調査等において、全実施教科の結果が全国平均(県・市平均)を上回ること。
 本年度実施の「単元末評価テスト」において、目標値を達成する児童の割合を80%以上にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の具体的な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 ・見通しとふり返りのある問題解決的な授業展開の徹底 ・一人1回以上の互見授業の実践に取り組む ・子どもの考えを引き出す課題設定と、まとめ(方)に重点をおいて工夫する	
	〈取組内容〉 ・「めあて→課題→まとめ→ふり返り」に一貫性・整合性のある授業を実施する ・課題設定・まとめ方の工夫・改善を図る ・校内の全体研究においては、算数科学習の実践で研究をすすめる ・実践授業だけにかかわらず、「自分の見方・考え方を表出する」場を設定する	〈家庭・地域の取組内容〉 ①基本的な生活習慣の確立 ②家庭学習の習慣化・充実 ③学校公開日の授業参観・見守り ④わんぱく広場や学習活動で、ボランティアとして協力
	〈取組指標〉 ・「大分市授業づくりの5つのポイント」を意識した授業(実施率90%以上) ・授業中において「自分の意見を表出する場」を設定した授業(実施率90%以上)	〈家庭・地域の取組指標〉 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の定着(90%以上) ・家庭学習の実施状況を確認する(週3回以上の点検)
	〈検証指標〉 ・授業が分かりやすいと感じる児童が増えたか(90%以上) ・「自分の考え・意見・感想などが言える」と答える児童が増えたか(90%以上)	〈家庭・地域の検証指標〉 ・保護者アンケートの結果数値と、記述内容 ・学力向上会議での意見集約と、事後アンケートの記述内容
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・日常の授業実践での様子や、単元末評価テスト結果をもとに、基礎基本事項が定着できていない子どもの実態を把握する。特に、達成率50%未満の児童に対しては、少人数授業・チャレンジ(国語)タイム・休み時間等を利用して補充学習を行う。 ・家庭学習の状況を把握し、放課後及び休み時間に家庭学習の徹底を図る。(家庭と連携し、週3回の点検を行う) ・学習のきまりアンケート結果をもとに、学習規律の徹底について重点的に意識して注意喚起を行う。 ・人権意識の醸成や、多様性が認め合える授業実践につながるように、道徳教育の内容を充実させていく。	